

新編  
古今  
類聚  
風

特43  
915



田子丹宮著述

神宮 早多與理  
教會

明治十三年五月  
版權免許

棹歌堂藏



以  
六



子

田中 敬 属





電<sup>でん</sup>信<sup>しん</sup>傳<sup>でん</sup>無<sup>なく</sup>而<sup>て</sup>  
敬<sup>けい</sup>神<sup>しん</sup>早<sup>はや</sup>多<sup>た</sup>寄<sup>き</sup>  
衛<sup>ゑい</sup>者<sup>しや</sup>尔<sup>に</sup>告<sup>つぐ</sup>流<sup>りゅう</sup>  
家<sup>か</sup>每<sup>まい</sup>二<sup>に</sup>の<sup>の</sup>卷<sup>まき</sup>

發語

我國古來判行の曆法は於る月の循  
環を測り算考せる所の大陰曆なれ  
ハ月の大小歳々變易して甚不便な  
しと雖新の際政府曆制を改正せ  
られ大陽曆となすに及て大小平年  
動く事なく一慶之と記憶せハ終身  
の便用を達すふに至る爰を以て不



學も顧も大小説教歌の一小冊を編  
成り以て童蒙に示すべしと欲す而し  
て村落の婦女子も讀賣の唄本と均  
しく樂て之を暗誦せし月の大小ハ  
勿論自然神恩君恩を弁ひ人たる道  
を知らざるに至るべし然る時ハ教導の  
一助をえならんと五十音折句の只  
言歌と添へ謹て述る

守道者必別富貴

簿中ハ伊勢教會の  
早多典理法了  
子讀よみハ大小の歌



明あき良ら賀う亦に治おさ滿ま苗ま  
 御み代よ曾も有う古こ家の坐ま留る  
 月つき能の大た小せう説せつ教きやう之の歎うた  
 早はや便べん大だい小せう説せつ

大おほか三みと一十八ひとじゅうはち五十二ごじゅうに  
 大おほ神かみ家いえ毎まいニにモも  
 頼たののめ七しちと  
 小こ士し一いちめ九くと一いちの四よ

事 一平ニ 惠 日ノ 下



天照皇大神の日神なるまことを示し歌

天あめのの下した

照てるるひのの阿あ不ふト

皇すめ御み祖おや

大おほ日ひ雷ら貴むち

神かみ靈たま座まなな現あるる夜よ

大日雷貴ハ天照皇大神の御名を利

月つき

限きり

大た

小せう

歌うた

左ひだり

于に

野の

布ぬい

流なが

上うへ乃の夕ゆふのの頭あたま字なハハ月つき

下した此こ字ののの頭あたま字なハハ六む



ひたさち ひたさち 一向 いこう 神 かみ と 君 きみ と の 道 みち な れ や

大 おほ 倭 やまと なる 國 くに を 目 め 出 で 度 たぎ

二 ふ を 見 み 鴻 こう 深 ふか の 神 かみ と 君 きみ の 息 いき

平 たい ら げ ま 坐 ま ち 安 やす け 身 み

三 み た び 衣 き 着 き ち 衣 き も の も 恒 とこ 家 いえ も

大 おほ 御 のみ 神 かみ 又 また 君 きみ 乃 なり 御 のみ 惠 めぐみ

四 よ 海 うみ 乃 なり 遠 とほ 津 つ 御 のみ 祖 おや 二 ふた 神 かみ

小 せう 鬼 おに 乃 なり 神 かみ を 持 も 持 も ぬ



こと うひこ きた

五穀ごこくのうひこ蚕さかのきた繭まゆはな綿わたもよよき

だれ につ ほん らみ へよ

六日本にっぽんのらみ神かみのへよ國くにをよ創つく

ろく おり けい

六ろくはお居いるけい者ものをけい下くだすけいよけいはけい良よ利り

くろ ま おめ した めい かつ

小くろ間ま居お目め下したをめい惠けいみかつ懐くわい下くだすくわい

しち ほう かね ぎん づぶ

七しち宝ほうをかね備ぎんひづぶ金かね銀ぎん積づぶこづぶもづぶ

おほ 三ち ひと

大おほ道みちふひとまひとぬひと人ひとをひとあひとやひとうひとさひと

ほう ほう ひと まさ づぶ

八ほう方ほうのひと人ひとはまさ真まとづぶ意い一いつ心しんをひと

おほ けい かつ

大おほはけい家けい乃の幸かつ一いつ心しんをひと受うくう



九 この たび おこ 思ひ ひと 一度 たひ 言 こと せし

小 こ 言 こと 事 こと 終 つひ 子 こ 思 おも ひ ひ と と 言 こと 事 こと

十 と 分 ぶん に に 属 ぞく した した 人 ひと の の 素 もと 考 かう る る な な よ

大 たい 花 はな 乃 の 牡丹 ぼたん ち ち 思 おも ひ ひ 事 こと あり

十 と 一 いつ や や 三 さん 乃 の 歳 とし 思 おも へ へ 善 ぜん の の 美 み

小 せう 學 がく 子 こ 校 がう 子 こ 思 おも へ へ 事 こと あり

十 じゅう 二 に 時 じ を を 一 いつ 時 じ じ じ あ あ た た の の 思 おも へ へ 事 こと あり

大 だい 橋 きょう 乃 の 思 おも へ へ 事 こと あり



永<sup>エイ</sup>國<sup>クニ</sup>乃<sup>ニ</sup>文<sup>モン</sup>字<sup>ジ</sup>と<sup>ト</sup>り<sup>リ</sup>ハ<sup>ハ</sup>五

十<sup>トウ</sup>考<sup>コウ</sup>新<sup>シン</sup>白<sup>ハク</sup>と<sup>ト</sup>を<sup>ヲ</sup>つ<sup>ツ</sup>入<sup>入</sup>

説<sup>セツ</sup>家<sup>カ</sup>と<sup>ト</sup>あ<sup>ア</sup>ん

五<sup>イ</sup>十<sup>ジュウ</sup>考<sup>コウ</sup>考<sup>コウ</sup>白<sup>ハク</sup>

ア 朝<sup>アサ</sup>な<sup>ナ</sup>夕<sup>ユフ</sup>

イ 伊<sup>イ</sup>勢<sup>セイ</sup>大<sup>ダイ</sup>神<sup>シン</sup>平<sup>ヘイ</sup>

ウ 彦<sup>ヒコ</sup>出<sup>デ</sup>神<sup>シン</sup>

エ 得<sup>エ</sup>し<sup>シ</sup>名<sup>ナ</sup>と<sup>ト</sup>

オ 样<sup>ヨウ</sup>之<sup>ノ</sup>人<sup>ヒト</sup>



カ

忠之毛

キ

君乃煮みよ

ク

之免子人

ケ

怪為屋

コ

心よき家

サ

酒一た

シ

仕事やまみ

ス

少一の

セ

性と補ふ

ソ

持あて業



タ 六つど 勵はげ 勉つと 勉めづ 勉めづ  
 チ ちのふ 盡つと 了り  
 ツ 常つね の 初はつ 吉きち  
 テ 手て 安やす 子この 也や 也や 也や  
 ト 番ばん 乃の 山やま 枝えだ

ナ 凡まへ 了り 也や 乃の  
 ニ 採に 採に 採に 採に 採に 採に 採に 採に  
 ヌ ぬき 了り 了り 了り  
 子 魚い 平へい 了り 了り 了り  
 ノ 後のち 八はち 身み の 了り 了り 了り



はの

園  
ら  
は  
ぬ

人  
乃  
奉  
以

福  
徳  
ハ

神  
の

保護  
す  
る  
を

身  
を

身  
を  
お  
こ  
な  
す

神  
を

目  
出  
度  
事  
を

度  
す  
神  
業



ヨ エ コ 一 ヤ

安やす之の世よと

夢いみまたたふふ

由ゆふふ也やららふふ

笑え顔がほてた瀟せう灑た孔く

余よ而に毛も以も家か内ない也や

口 レ ル リ う

樂らく一いよよと

利りとと貪むさ行ぎやうハ

洛らく布ふととううと

禮れい義ぎ也や也や

禄ろくととああしし人ひと



ヲ 王 子 井 口

永<sup>じやう</sup>國<sup>こく</sup>乃<sup>のみ</sup>  
威<sup>ゐ</sup>權<sup>けん</sup>ハ代<sup>だい</sup>々<sup>々</sup>平<sup>へい</sup>  
勅<sup>うぶ</sup>キ<sup>き</sup>ナ<sup>な</sup>ク  
衛<sup>ゑい</sup>護<sup>ご</sup>之<sup>の</sup>厚<sup>あつ</sup>ク  
福<sup>とく</sup>便<sup>べん</sup>比<sup>ひ</sup>民<sup>たみ</sup>



